



努力の壺の話

校長 吉川 文章

5月3日の全校朝会でこのような講話を行いました。

ちょうど6年前の9月のことです。仕事に出かける時に、家の前で小学校5年生くらいの男子が走っている姿を6時過ぎくらいに毎日見かけるようになりました。いつも後ろにお父さんがいて、励ましながら走っていました。走ると言っても、早歩きのような感じで、走り方も上手とは言えない様子でした。口を開け、「はあはあ」しながら、苦しそうな様子で走っていました。

2日3日とその様子を見ていて、「頑張っているな。偉いな」という思いと「いつまで続くのかな。そう長くは続かないないだろうな」という思いをもちました。最初は、お父さんが、やりなさいと言っているから仕方なく、走らされているという感じでした。表情も、「やりたくないな」と顔に書いているかのようでした。

毎朝その子の様子を気にして見るようになりました。遅く家を出る日もあったので、その子に会わないと「あれっ あきらめちゃったのかな」という気持ちになりました。しかし、1週間経っても2週間経っても、その子は走るのをやめませんでした。1ヶ月位経った頃でしょうか。変化が現れました。息づかいが「はあはあ」から「はっ はっ」とリズムが出てきて、腕をしっかりと振って走れるようになってきたのです。特に変わったのは顔つきです。「やらされている」から「自分からやる」という表情になってきました。厳しい顔でそばに付いていたお父さんも、その子と同じ速さで走るのが、精一杯という様子でした。その子の変化を自分のことのように嬉しく思いました。

2ヶ月経つと季節は、冬に近づいてきました。最初は、半袖で走っていたその子も、長袖になりました。お父さんはもういませんでした。年が変わり、春に近づいてきた頃には、身体つきもしっかりとしていました。それから2年ほど経ったとき、陸上選手のようなスピードで走るその子の姿を見かけました。自転車に乗っているお父さんがそばにいました。中学校の駅伝大会の練習をしているのかなと思いました。

今はもう、彼を見かけなくなりました。でも、きっとどこかで努力を続けているに違いないと思っています。

努力には、それをためる壺があるそうです。1週間や2週間努力をしても、その壺はいっぱいになりません。努力を途中でやめると壺の中はすぐにからっぽになります。続けることが大切です。ほんの少しの努力の日があってもかまいません。とにかく続けることです。そして、その壺がいっぱいになった時、努力の成果が壺からあふれ出すのです。あふれ出してからは、自分でも信じられない位の力がどんどん付いていきます。走り続けたその子は、多分、努力の壺をいっぱいにし、溢れだし、努力の成果が形となって現れたのでしょう。

みなさんは、この話をどう思いましたが、心当たりのある人もいるかもしれませんね。体育フェスティバルの特別時間割が来週から始まります。運動でも、勉強でもなんでもかまいません。何か一つの事を目標に努力を続け、努力の壺を溢れさせて欲しいです。各クラスでも努力の壺の話のことを話題にしてみてください。

お家でもこの話を話題にしてくだされば幸いです。学校と家庭で連携をして「努力の壺」があふれるきっかけがたくさんできればと思います。